

Daily Report (号外)

～米FRB議長の講演を受けた市場の変動について～

事態概要

26日の米国株式市場は、8月25～26日に開催されたジャクソンホール会議における米連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長の講演内容を巡り、FRBが景気よりもインフレ抑制を重視する想定以上の金融引締め姿勢を見せたことで、大幅安の展開となりました。

26日のFRB議長講演では、通常30分間の枠が設けられていたものの、8分程度で終了し、短いスピーチの中で金融引締め継続の必要性を市場に対して強く訴える内容でした。

9月のFOMCでの利上げ幅については、今後75bpの利上げを継続する可能性に言及する一方で、「今後入ってくるデータや見通しを踏まえて総合判断する」と述べ、明確な言及は避けました。

FF金利先物市場では、想定以上の金融引締め姿勢を受け、23年3月に3.8%程度まで金利が上昇する予想となるなど、政策金利の予想水準は再上昇しました。

市場の反応

ジャクソンホール会議でのパウエル議長の講演内容を受け、FRBによる金融引締め継続への警戒感が高まりました。市場参加者の一部で期待されていた金融引締めペース減速・金融緩和への転換観測が後退し、今後の景気への不安が広がったことで、米国株式市場は全面安の展開となりました。

26日の米国株式市場は、主要3指数揃って大幅安となりました。NYダウは前日比▲3.03%となり、5月18日以来の1,000ドルを超える下げ幅となりました。ハイテク株比率の高いナスダック総合株価指数が同▲3.94%、S&P500指数が同▲3.37%、といずれも大幅に下落しました。米国10年債利回りは、FRBの積極的な金融引締め姿勢を懸念して売られ、同+0.02%程度上昇し、3.04%程度で終わりました。WTI原油先物(10月限)は、FRBによるインフレ抑制のための利上げ継続への警戒感はあるものの、9月5日に開催されるOPECプラス会合を前に、需給ひっ迫懸念が強まっていることなどから上昇し、同+0.58%の1バレル93.06ドルとなりました。

週明け29日の東京株式市場は、先週末の米国株安の影響が波及し前場終了時点で日経平均株価は前日比▲2.76%、東証株価指数(TOPIX)は同▲1.99%となり、日経平均株価は約3週ぶりに節目の2万8千円を下回って前場を終了しました。また、東京外国為替市場は日米金利差の拡大を睨んだ動きが進み、1ドル=138円台とおおよそ1か月ぶりの円安水準で推移しています。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2021/3/31～2022/8/26、(出所)Bloomberg

運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。

評価及び今後の見通し

パウエル議長が金融引締め姿勢を明確にしたことを受け、9月のFOMCでは75bp程度の大幅な利上げが実施される可能性が高まったと見ています。

FRBは、インフレ率を目標である2%に下げるとは早期に金融緩和政策へ転換することを否定する考えを示し、当局が近く方針を転換するとの見方を牽制する形となりました。

しかしながら、利上げに伴う景気後退も依然として警戒する必要があることから、FRBの政策運営には引続き難しい舵取りが求められると考えます。

目先は、今週9月2日発表の8月米雇用統計に注目が集まりますが、引き続き堅調な伸びが予想されていることから、FRBの金融引締め姿勢をサポートする内容となることが予想されます。

短期的な見通しとしては、9月のFOMCに向けて、株式市場では金利の高まりなどを背景にボラティルな展開が続くと予想され、また労働市場が堅調で引き続き利上げ継続が予想されることから、企業業績の減速を通じた上値の重い展開が続くと想定しています。

長期的な見通しとしては、当面はインフレの高止まりが継続する他、金融引締めにより金利も上振れしやすい環境が続くと予想します。但し、米企業の業績見通しは2022年、2023年ともに1クータ後半の増益が見込まれていることから、インフレが減速し金利が低下に向かうにつれ、株式市場も緩やかな上昇基調に復すると見ています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
9/8	ECB理事会
9/20-21	米連邦公開市場委員会(FOMC)
9/21-22	日銀金融政策決定会合

出所: Bloomberg